

電車どおり

令和元年8月25日発行 第168号 函館中央病院 発行責任者 本橋 雅壽

総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、北海道小児地域医療センター、日本医療機能評価機構認定施設

基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。



認定看護師にインタビュー

認定資格をとり看護師としての視野が広がりました

認定看護師とは日本看護協会が定める研修を修了し認定審査に合格した看護師のことを言い、特定の分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護を実践する看護師を指します。わかりやすく言うと、その道のスペシャリストです。認定看護師の分野は21分野に分かれており（2019年8月時点）、今年当院では2名の看護師がそれぞれ「手術看護」と「救急看護」の認定審査に合格しました。今月は、手術看護認定看護師となった武井一紘看護師にインタビューで話を聞きました。



手術看護認定看護師
武井 一紘（手術室勤務）

手術室の看護師はどんな役割があるのでしょうか？

手術看護師の役割は主に2つあります。執刀医にメスなどを渡し手術の進行を直接的にサポートする“器械出し”という役割と、術前・術後訪問、手術中の患者さまの状態観察や、手術記録、使用する医療機器の準備などを行ない、手術全体を間接的にサポートする”外回り”という役割です。

病棟の看護師と違い、手術室の看護師は患者さまと関わる時間が限られています。その為、患者さまと接する周手術期（手術の前・中・後）の時間をより大切にしています。

例えば、手術を控えている患者さまの病室へ行く術前訪問では、少しでも手術に対する不安を軽減できるよう、声かけや説明を心がけています。それと同時に、カルテからだけでは得られない情報を患者さまとの会話の中から収集し、必要な情報を他の手術スタッフと共有し、患者さま個々に合った看護を考え手術に入ります。手術中は、患者さま個々に合った看護を行い、状態の変化などを注意深く観察します。そうすることで、手術後の患者さまに起こり得るかもしれない変化や症状などを予想し、手術後のケアを担当する病棟看護師へより詳しく申し送ることが出来るのです。患者さまが安全に手術を受けられるよう支援するために、手術室の看護師には大きな役割と責任があります。

中央・病・院・前

水の流れ、時の流れ、感情の流れ、場の流れなど“流れ”を感じる



場面は多々あります。勝負事では「ピンチの後にチャンスあり」と、いかに流れと勢いを掴むかで勝敗が分かります。思考回路がネガティブな時は良い流れを掴めません。逆にポジティブに物事を考える習慣がある人は、空気や場の流れを見失うことなく良い流れを自ら引き寄せます。先日良くない流れを感じた私は、流れを変えようと、足の爪を切りました。以前から足の爪を切ると流れが変わるような気がして、何となくやっています。結果、流れが上向いてきているような気がします・・・

何事も気持ちが大事です。前向きに上向きに頑張ります！

認定看護師を目指したきっかけは？

いつか認定資格をとりたいと漠然と思っていました。大学を卒業してから当院に就職し、手術室で勤務するなかで“やりがい”を感じることがたくさんあります。手術を行い、患者さまの症状が良くなり病気が治る姿をみることや「ありがとう」と言われた時、その手術に関わりをもてた喜びが本当に大きいです。上司に「いつか認定看護師資格をとりたい」と思いを打ち明けたところ、「いつかではなく、今すぐとりなさい！」と背中を押してくれました。漠然とした思いから、「よし、やるぞ！」という気になりました。

認定看護師としてこれから取り組みたいことは？

やりたいこと、やらなければならないことは沢山あります。その中で、優先的に考えているのは若手スタッフの育成です。当院では手術件数が増加傾向にあり、若手スタッフの技術・知識の向上が必要不可欠です。認定看護師資格を取得した今は、後輩や同僚からも自分自身に対する見方が変わってくると思うので、認定看護師として説得力のある姿で教育にあたりたいと思います。



また、自分自身の見え方にも変化が生じています。認定資格を取得するために、全国各地の病院から多くの看護師が集まり、6ヶ月間の研修を受けました。一緒に過ごす中で、他院の状況などについて情報交換できたことがとても勉強になりました。今まで自分に見えなかった部分が見えるようになり、今後につなげていこうと考えております。患者さまがより安全に手術を受けてもらえるように、これからも患者さまを第一に考え、看護師として成長し続けられるように日々頑張っていきます！

港まつり ワッショイはこだて優勝！

約 200 名のスタッフが可憐な舞を披露

8月3日(土)に開催された「港祭り・ワッショイはこだて」の港踊りに参加し、2年ぶりの優勝を果たしました！当院では、毎年港まつりが近くなると、踊りの先生に来て頂き、業務終了後に踊りの練習をして本番に臨みます。若いスタッフが多い為、港踊りを初めて踊るスタッフもたくさんいますが、本番では参加した約200名が息を合わせて可憐な舞を披露することが出来たと思います。

今年は天気にも恵まれ、とても気持ちよくお祭りを楽しみました。沿道の皆さまからは暑い中たくさんのご声援を送って頂き、本当にありがとうございました。



日曜日に乳がん検診を実施

10月20日(日)実施します。

当院では毎年10月第3日曜日に乳がん検診を実施しております。日頃お仕事の都合などで検診を受けたくても受けられないという方々には良い機会かもしれません。また、当院では乳がん検診のほか、子宮がん検診も実施します。

完全予約制の検診です。ご予約の受付は9月中旬頃を予定しておりますので、時間や料金などの詳しい内容が決定次第、院内ポスター等でお知らせ致します。

がんは早期発見が大切です！



熱中症は“水分”と“塩分”の不足が原因！

体温が上昇すると体は発汗によって体温を下げようとします。汗には水分と塩分が含まれ、この両方が失われることにより脱水症状となります。また汗をかくことで細胞内のカリウムも失われ脱水症状となります。水分補給をする際は水だけではなく塩分補給も大切です。スポーツドリンクや経口補水液、麦茶などが有効です。また塩分は梅干しなどからも摂取出来ますので予防ケアにどうぞ。

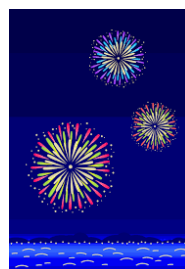
院内から花火大会を楽しみました

南棟8階を開放し小児患者さまを招待！

8月1日(木)函館港祭りの初日を飾る“花火大会”が開催され、当院では小児病棟へ入院している患者さまを対象に、院内8階からの『花火観覧』を行いました。この取り組みは今年で2回目となり、普段は一般の方の立ち入りが出来ない南棟8階を特別に開放し、8月の港祭り期間中に入院している小児の患者さまとご家族を励まそうと始めたものです。当院は、函館市内の中心部に立地し、当院南棟からは函館山をはじめとした市内はもちろん、天候のよい日には、津軽海峡から青森県まで一望できるとも眺望のよい場所にあります。

当日は、天候にも恵まれ、約20名の患者さまと付き添い者を迎え、花火打ち上げ開始と同時に観覧がスタートしました。南棟8階からの夜景と漁火を目前とした方々からは、一斉に歓声が上がりと、緑の島周辺から打ち上げられた花火が夏の夜空を美しく彩り、入院中のお子さんたちを明るく照らしました。花火大会を楽しんでいたことで、入院中に外出できないお子さんたちにとって、気分転換になったのではと考えております。

お子さんたちからは「夏休みの絵日記に書くよ。」「入院中にこの花火と景色が見られたのが嬉しかった。」と、明るく可愛い笑顔と感想をいただきました。



打ち上げられた花火を南棟8階から観覧

【患者さまの権利】

- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務



セカンドオピニオンのご相談は・・・

総合医療支援センター（中央棟1階）へ
お気軽にご相談下さい。

『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先：TEL 0138-52-1231（内線2263）

次号発行予定は9月25日です。お楽しみに！！